

土の上には、細かく切ったワラや、かれ草などをして、乾かない工夫をしよう。

■とんぼ栽培

苗を植えるかわりに、サツマイモを買ってきて、頭の方（つるがついていた方）を下にして半分くらい土に埋めてみよう。そうすれば、あらふしぎ！芽がでてくるよ。そのままにして、どのくらいイモができるかためしてみるのもおもしろい。

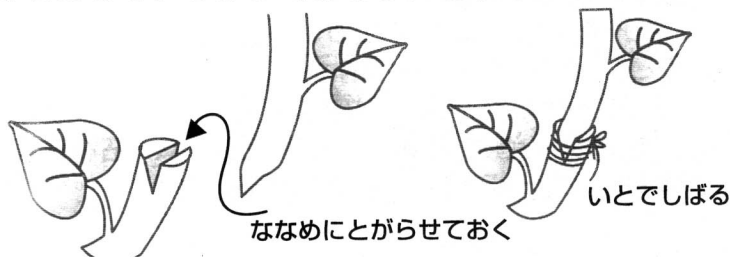
■葉っぱもたべられる？

中国や東南アジアの人たちは、クキや葉も食べるんだって！夏休み前くらいになったら、葉と葉柄を少しとって、おひたしや油いためにして食べてみよう。味は・・・食べてからのお楽しみ！

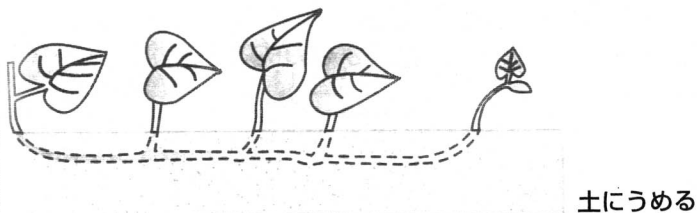
でも、食べるのは少しにしよう。あんまりとりすぎると、イモが育たなくなるからね。

■おもしろ実験

サツマイモのクキをちょんぎって、切れ目を入れる。そこに、アサガオのクキをちょんぎったものをさして、しばっておこう。どうなるかな？



のびてきたツルの途中を、もう一度畑に埋めてみよう。小イモができるかも。



買ってきた苗を、さらにちいさく切って植えてみよう。葉だけならどうなるか、とか、クキもいれると・・・など、いろいろやってみると、おもしろい。



■体にとってもいいサツマイモ

サツマイモは、だれにでもつくれて、おいしいだけじゃない。小さな畑でもたくさんとれる。「カリウム」「食物せんい」や「ビタミン」なんかもたくさん入っている。高血圧・体の酸性化をなおす「アルカリ性食品」で、体にとってもいい。しかも、たくさんたべても太らないんだ。本当に、「野菜の王様」ってとこかな。

■サツマイモの「歴史」

サツマイモの栽培は、メキシコで、今から3千年も前に始まった、といわれているよ。日本でみんなに栽培されるようになったのは、3百年くらい前の江戸時代だ。「青木昆陽」という学者が、さつま（今の鹿児島県）からこのイモをとりよせ、日本中に広めたのが始まりだ。だから「サツマイモ」と呼ばれるようになったんだ。水がちょっとしかなくてもよく育つし、天気が悪くてもとれる。むかし、雨がふらずに米がとれない「ききん」の時も、サツマイモはとれたんだ。そうして、サツマイモは、人の命を救ってきたんだよ。いまこうしてみんなが暮らせるのも、サツマイモのおかげかも？

戦争中は、サツマイモをたくさん作っていたことは知ってるかい？おじいちゃんやおばあちゃんに聞いてみよう。

今、世界中でとれる量の8割くらいが中国で作られている。日本では、鹿児島県などの南のほうや、千葉県・茨城県などでたくさん作られている。

サツマイモは、食べるためだけじゃなくて、デンプンやアルコールをとるためにも作られている。中がオレンジ色やムラサキ色のもの、皮が白いものなど、種類がたくさんあって、全世界で300種類くらいあるといわれているよ。

■いつかはたべよう「宇宙イモ」！

アメリカのNASAで、宇宙でサツマイモを作る研究をしているよ。少ない土地から、たくさんとれるし、体にもいいからなんだ。将来は「宇宙イモ」が食べられるかも！